

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790300075		
法人名	合同会社いろはの杜		
事業所名	グループホームいろは		
所在地	沖縄県うるま市字仲嶺298番地2		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790300075-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790300075-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成25年3月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームは住宅街に立地しており、和室の大開口から見える雑木林が癒し空間として広がっている。近くには劇場、保育園、コンビニがあり生活に便利な環境にある。入居者は、地域のミニデイや盆踊り、沖縄童唄のムービーづくりやオペラコンサートに参加し、近隣住民と自然なふれあいで交流している。また、個々の生まれ育った土地の文化に習い、海へ出かけたり、季節の行事や楽しみを工夫し、家庭的な暮らしを支援している。運営推進会議では、委員の歯科医師からの加齢に伴う口腔ケアの重要性や、防災について検討する中で、消防団の協力が得られる関係を築いている。また、地域の方々にも貢献できるよう、認知症に関する情報提供や相談などを行ったり、中学生の職場体験を通して人材育成に力を入れている。外部研修へも積極的に参加し、質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、住宅街の一角に位置しており、法人代表は、地域の一人として事業所立上げ以前から地域との関わりがあり、高齢者が多い割には介護保険事業所が少ない等の地域のニーズを受止め、地域密着型サービスを開所している。当初より自治会に加入し、一人暮らしの高齢者宅を訪問したり、夏休みのラジオ体操場所として駐車場を提供する等、地域の一人としての取り組みが実践されている。運営推進会議や消防署の指導による、避難訓練が定期的実施されている。利用者支援として、介護計画に沿ったサービスを実施し、チェック方式で記録したり、3か月に1回介護計画の見直しをする等、利用者の意向を汲み取りながら、地域に根差した支援を実践している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年5月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を大切に 毎朝唱和し職員が理念に沿った援助を行えるよう取り組んでいる。	事業所開所に伴い法人立上げがなされており、法人理念は、地域密着型の意義を踏まえた内容となっている。法人代表は、職員採用時に理念や事業所の成り立ちについて説明している。職員は、ミーティング等において、理念を唱和し共有し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に地域の方々とのふれあいや、自治会によるミニデイサービスや行事等に参加している。また、沖縄童歌の子ども達や、近隣の保育園と日常的に交流を持っている。	代表は地域に住み、事業所開所以前から地域との関わりがあり、高齢者が多い割には事業所が少ない中、集える場所がほしいとの地域からの要望を受け立ち上げた経緯がある。開所当初から自治会に加入し、一人暮らしの高齢者宅を訪問したり、夏休みのラジオ体操場所として駐車場を提供する等、地域の一員としての取り組みが実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミニデイサービス、運営推進会議時に事業所によるサービス内容や認知症に対する理解を求めるとともに、学生就職体験等にて人財育成を実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定例(偶数月第4火曜日)で開催しており、活動状況や改善内容等を報告。認知症に関する事やリスクマネジメント、災害時の対応等、アドバイスや意見をいただき、サービス向上へ繋げている。	会議は、事業所開所時から2か月に1回定期的で開催され、利用者や家族、市職員、消防職員、歯科医、自治会長等が参加している。事業所は、活動状況や事故報告等を行い、委員と意見交換が行われている。歯科医も毎回参加し、会議で話題となった医療に関する情報等を提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所の行事に出席していただき、日常の様子や取り組みを伝えている。何か疑問に感じたことや、確認したいことがある場合は、相談できる環境にある。	市職員は、毎回運営推進会議に参加し情報交換している。また、電話で相談したり、毎月の報告の提出に出向き、利用者も同行することもある。台風時の地域の独居高齢者等の受入れについて、事業所から市に提案したり、地域の方に認知症についての話をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修において、身体拘束やBPSD、パーソンセンタードケアについて学び、禁止対象となる具体的内容を理解しており、職員全員が身体拘束を行わないケアを実践している。	職員は、研修や毎月の会議等で身体拘束について学び理解し、拘束のないケアを実践している。朝6時頃、利用者が玄関を空け新聞を取りに行ったり、夜は別の利用者が「鍵閉めた？」と職員に確認する等、利用者は自由に入出できる環境にある。リスクについては、家族と話し合っており、利用者が不穏の場合は、フロアの畳間やソファで職員と一緒に夜間を過ごす等の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を外部、内部にて受講し、高齢者虐待や身体拘束について学び、認識を高めると共に、虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修に参加し、権利擁護について学ぶ機会を持ち、制度が活用できるよう体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時充分説明し、解約、改定時にも同様理解、納得してもらえるような説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話にて、現在の状態を伝え、入居者や家族の意見・要望を確認し、課題があれば解決できるようにしている。また、玄関に相談箱を設置し、意見や要望に対応できるよう環境づくりに配慮している。	利用者が思いを伝える機会として、ソファで一緒に話したり、散歩や入浴時、また、居室でゆっくり話を聴くこともある。殆どの家族が毎週来訪し、直接話を聞くことが多く、要望等の内容は記録にきちんと残している。「玄関口に花があるときれいだけどね」との声に苗を準備したり、毎月の自宅訪問や自宅への電話支援等、意見を反映している。また、各居室に連絡ノートを設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望は、全体会議やショートミーティング、個人面談でまとめ、実践に反映させている。	管理者は、日頃の申し送り時や毎月の会議の中で、職員の意見を聞く機会としている。職員から休憩時間の確保や次月の勤務希望日についての要望があり、休憩時間をきちんと確保したり、毎月25日に次月の勤務割りを作成するようになった。法人は当事業所のみのため異動はないが、開所時から継続している職員は少ない状況である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の職務実績や勤務時間の状況を把握し、給与や労働時間の調整を行っている。また研修の参加を推進しており、研修中は勤務扱いとし、残業や休出にならないよう考慮している。処遇改善交付金を給付し、意欲を持ち続けるよう職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や管理者研修、GH連絡会研修、外部、内部研修など、積極的に参加できる機会を設けている。研修結果の報告会を持ち、学びの共有や、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所等の協力を得て、運営推進会議や、敬老会などに参加し交流を深めている。GH連絡会の各分野の勉強会や研修に参加、地域全体のホーム質向上を目指した取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面談するとともに、入居後のストレスや要望に向き合い感じることで、お互い馴れ親しむ関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見要望を理解し、対応方法について話し合うなど信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向や状態を把握し、よりよいサービス提供と共に、今後必要となるサービス導入も視野に入れ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや身体状態を考慮しながら、日常生活を共に楽しみ、支えあう関係ができるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に日頃の状況や情報を交換し、共に支え合っている事の喜びが共有出来るような関係継続に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅や自宅など、なじみの場所を訪問したり、常時面会可能な環境づくりを行っている。	地域社会との関係性の継続として、「家の畑を見に行きたい」の要望を受け、毎月自宅訪問しながら近隣と関わったり、本の好きな利用者と図書館に出かける支援をしている。また、地域社会での関係性の把握は、本人や家族から聞いたり、地域の人から得ている。利用者の知人が住んでいる地域に出かける際に情報を得ることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の時間を大切にしながら、楽しく生活よう、家事や料理、お茶会の時間を活用し、共に支えあう支援を実践している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族との関係を大切に、相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のライフスタイルや、今を生きる姿から、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	殆どの利用者は、言葉での会話が可能で、日々の生活の中や居室で思いを聴くよう心がけ、把握するようにし、家族への来訪依頼や自宅への電話等の支援をしている。把握が困難な場合は、言葉をかけながら表情やうなずき等、非言語コミュニケーションで把握し、職員間で話し合いながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、後に本人や家族、友人、専門職等の情報を基にアセスメントし、サービス提供に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切に、心身の状態を把握し、情報の共有を図りながら、よりよい支援へつなげるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員による意見交換、アセスメントをもとに、日々変化する現状を把握したうえで、プラン作成に反映させている。作成されたプランは、全職員の共有としている。	担当者会議は、本人や家族も参加して実施し、「畑仕事が見たい」との意向を受け、介護計画に反映している利用者もいる。サービス実施記録はチェック方式で行われており、モニタリングも毎月されている。3か月に1回定期的に介護計画を作成し、状態変化のある利用者は随時に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に食事、排泄、日々の状態や気づき、実践事項を記録し情報共有や介護計画に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自治体開催のゲートボールやカチャーシー大会等への参加や、ドラゴンフルーツや野菜等を育てたいという本人や家族の要望に応じて、柔軟な支援のサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災活動では、消防署や地域の方々の協力を得て、安全な暮らしを支援している。行事等では台湾踊りやオカリナ、うちなー童歌の子ども達の歌や手話を通して、こころ豊かな暮らしが楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療がある他、かかりつけ医へも、適切な医療受診のため情報提供を行っている。	定期受診は、家族が事業所に来訪し、看護師が作成した事業所独自の受診票と利用者連れて、これまでのかかりつけ医を受診している。結果は、受診票に医師のコメントを記入し返却してもらうシステムになっており、職員は記載内容を共有している。また、訪問診療での対応や急な受診の場合も家族対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を看護師へ報告し、日常の健康管理や地域医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ情報提供を行うことで、入居者の早期治療、早期退院へつながっている。入院中、主治医から治療状況の説明を受けるとともに、本人の気持ちや意向を伝え、安心した治療が受けられるよう、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに伴う意思確認を家族と行い、医療機関との連携や、職員への研修受講もしている。	重度化した場合の対応及び看取りケアの指針が作成され、家族に同意を得ているが、職員への説明や研修、勉強会等については、これからの課題である。	重度化した場合の対応及び看取りケアについて、勉強会等を通し理解を深めると共に、対応については、職員間で具体的に話し合うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や、マニュアルを貼り出し急変対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の方々との協力体制の中、避難訓練を実施し、全職員が災害時に対応できるようにしている。また、定期的に避難通路の確認や、消火器など災害時に必要となる道具の点検を行っている。	防火管理者の下、消防署に避難訓練実施を申請し、夜間を想定した避難訓練や消火器の訓練、AED研修等、消防署立会いで地域の方も参加し、年2回実施されている。また、事業所独自で自主訓練も行われている。事故マニュアルはフロアに掲示され、備蓄として、発電機やおむつのストックがあり、廊下に足元ライトも設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けや、対応をしている。	事業所は、「その人らしいあり方を大切にします」等の行動指針の下、利用者の人格を尊重するケアを心がけ、例えば、トイレのドアは必ず閉めて使用する等、ミーティングで確認している。また、利用者を気づかう声かけや笑顔で過ごせる工夫を行い、上から目線や命令口調、家族の前で躊躇するような声かけは普段から行わないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いや希望が表出できるよう心を寄せ、生活の中で、自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、買い物や散歩、自宅訪問など、希望にそった支援を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者や家族の希望にそい、理・美容師さんへ散髪を依頼している。化粧水や化粧品なども用意し、いつでもおしゃれや身だしなみが整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳から片付けまで、その方に合わせた支援を実践している。職員も一緒に楽しい食事時間を共にし、コミュニケーションを大切にしている。	代表が運営する他法人の栄養士が作成する献立を基に、事業所で3食調理している。庭の小畑に芋やネギが植えられ、利用者と一緒に芋の葉を収穫し下ごしらえをしている。家族から差し入れの食材もある。また、食器洗いや皮むき、ホットケーキ作り等、利用者も参加している。日頃は一緒に食する職員もいるが、調査日は介助を中心とし、利用者がほぼ終えた頃から食事を摂っていた。	食事は、1日の大切な活動のひとつであるため、利用者の状況を踏まえながら、一部の職員でも利用者と一緒に、同じ時間に同じ食卓で、同じメニューを継続的に食する工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個人に合わせて確認したうえで、好きなものや状態に合うよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声をかけ、個々の状態に合わせ口腔ケアを支援している。また、歯科医と連携し、口腔状態がよりよく保てるよう体制を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立に向けてそれぞれのパターンを把握し、心身の状態に合わせた自立支援を実践している。	排せつの状況をチェック表により把握すると共に、座っている利用者が頻繁に立つ行為や腰を触るしぐさ等の場合、トイレ誘導している。自ら自室でチェック表に記入している利用者もいる。日中は、トイレ排せつを支援し、夜間は、状態に応じてポータブルトイレ使用もある。失敗時は、「取り替えましょうね」と、さり気なく声かけし本人が傷つかないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状態に合わせ食材や水分量の調整や、体操などを促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望、状態を確認してうえで、気持ちよく入浴できるようお話ししたり、個々に合わせた入浴支援をしている。	入浴は曜日を決め隔日の午前となっているが、希望に沿って午後入浴する利用者もいる。サービス提供が困難で、10日程入浴していない場合は、トイレ後に浴室へ誘導し、足から先に洗う等、本人が納得する入浴手順を職員間で共有し、入浴を楽しめるよう工夫をしている。同性介助を原則としていないが、1人の利用者は、希望により同性介助し羞恥心への配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの希望、状態、生活習慣を考慮し、生活リズムを整えながら、入眠前の足浴やBGMなどを活用し、安眠や休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、用法、副作用の説明ファイルを作成し職員が理解し、服薬後の経過、状態確認も行っている。疑問に思うことは、看護師や薬剤師から説明をうけ、情報を共有し実践に生かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意向を汲み、持っている力を引き出しながら、日々の生活に喜びや楽しみがもてるよう見守りながら支援している。		



沖縄県（グループホームいろは）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、ドライブ、外食、菜園の手入れなど本人の希望にそって、外出支援に努めている。花見等の行事や、自治会の催しへ家族も参加し、共に協力しながら外出支援を行っている。	外出の機会として、天気の良い日は毎日事業所の周りを車いす利用者も一緒に散歩している。毎月1回は、ドライブを実施し外出の機会としている。「100円ショップで買い物したい」等の希望に沿って対応したり、毎月の自宅訪問や図書館へ出かける等の個別支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や能力に応じて所持していただいたり、事業所にて管理し買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をしたり、家族や知人への手紙、暑中見舞いや年賀状を書くなどの支援を行っている。返信がくると、みなさんとても喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた雰囲気づくりを心がけ、採光や照明の色、空調設備を活用し、心地よい生活空間を提供している。	玄関はひな壇が飾られ、季節に応じた飾りつけをしている。共用空間のフロアは、ソファーやマッサージチェアも置かれ、所定の場所でくつろいでいる利用者もいる。フロアを挟んで、キッチンや9畳の畳間があり、テーブルに庭の花が飾られ、三味線や碁盤が置かれている。トイレは引き戸の車いす用で、2か所は浴室に入れるようになっている。また、浴室は、冷暖房機が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、リビング、ダイニング、屋外デッキやベンチなどの各空間に、それぞれが自由にくつろげる居場所の工夫を施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	より住みよい環境づくりのため、本人や家族と相談し、思い出、馴染みのものを配置している。日用品もなじみの物を使用することで、本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、ベッドやナースコール、ベッドサイドライト、クーラー、扇風機、一間(180cm)程のクローゼットがあり、衣類やおむつ等が収納され、室内が整頓されている。また、カレンダーや写真等が飾られ、連絡ノートも設置されている。入口に数字を方言で示し、各々花の額も飾られ、利用者が理解しやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の間取り、導線にも気を配り、キッチン前のカウンターでは、盛り付けや配膳が行えるように工夫している。また、トイレや浴室などはサインプレートを設置、3枚扉を採用し自ら安全に行けるよう配慮している。		